

全国訪問教育研究会

オンライン

第35回 全国大会(近畿)

一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして
～つなく つなげる 今ここから あなたへ～

- ①報告「和歌山県の現状とニーズについて」
- ②分科会「健康・身体づくり」など6分科会
- ③訪問教育に関する第9次全国調査報告
- ④シンポジウム

テーマ「訪問教育と医療的ケア～その歴史と課題～」

医療的ケア児支援法が成立・施行され、医療的ケア児が通学しやすくなる条件が整ってきた。一方で、和歌山県では、訪問教育生の医療的ケアの実施については、いまだ学校看護師による実施が行われず、スクーリングや学校行事での対応は保護者が担ったままである。また、担任が実施することも難しい状況である。

医療的ケア児支援法が、医療的ケアを必要とするすべての子どもの教育の権利拡大につながるようにするためには今後どのような条件整備を進めていくべきか、問題提起となるような意見交換を行う。

下川和洋（NPO法人地域ケアさぽーと研究所・理事）

加藤亜里沙（和歌山医療的ケアを必要とする子どもの教育と生活を考える会・会員）

縄田登紀子（大阪府立藤井寺支援学校・教頭）

和田聖子（一班社団法人 幹 管理者統括・看護師）

2022年8月9日(火)

9:00-16:30

●参加費●
会員：1500円
一般：2000円
学生・保護者(家族)1000円

要項



申し込み(8/5×切)



ZENHOKEN



全国訪問教育研究会第35回全国大会（近畿）

■大会日程

<午前の部>

9：00～ 9：45 開会行事・基調報告

10：00～12：30 分科会

分科会①健康・身体づくり

障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対するかかわりについて考えましょう。姿勢づくりや呼吸支援等、子どもの活動を引き出すために必要なことについて講義と実践を交えて交流しましょう。

◆竹脇真吾（埼玉県立特別支援学校）

分科会②コミュニケーション

重度・重複障害児のコミュニケーションを育てるための支援について、訪問での実践について交流しましょう。それぞれの発達段階にある子どもを丁寧に観察、その主体的な反応を活用し、主体的・対話的な学びを深める視点から、幅広く協議をしましょう。重症児と言われる子どもたちは「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合しましょう。

◆高木 尚（全国訪問教育研究会全国事務局）

分科会③授業づくり・教育課程Ⅰ

授業・教材づくり、複数訪問やスクーリング、行事への取り組みなど、日々の実践や悩みを交流しましょう。教育課程の視点から、訪問学級の子どもたちにふさわしい学びと生活について討議しましょう。よろしければ、教材もご紹介ください。

◆木下博美（全国訪問教育研究会 元副会長）

分科会④授業づくり・教育課程Ⅱ

表出や表現を援助する手段として、ICT機器等が活用されています。GIGAスクール構想の推進で配布されたタブレット端末等の活用を含めて、教材や授業づくりについて学び合しましょう。よろしければ、教材もご紹介ください。

◆荻田知則（愛媛大学）

分科会⑤病院や施設における教育

"生きる力を育む"いのちの輝く教育を求めて、病気療養児や施設入所児者の教育内容・方法や院内学級・分教室・病院内施設内訪問教育の実践を深めていきましょう。

◆西本幸弘（独立行政法人国立病院機構 和歌山病院）

◆栗山宣夫（育英短期大学）

分科会⑥教育と地域での生活支援 ―医療・福祉・教育の連携

子どもたちの学びと生活を豊かにするためには、「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたち、内部疾患のある子どもたちなど、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と地域での生活を考えていきましょう。

◆下川和洋（全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぽーと研究所理事）

13：30～14：00 訪問教育に関する第九次全国調査報告

14：10～16：10 シンポジウム

16：10～16：30 閉会行事

16：45～17：15 全訪研総会